

BIEC

Bio Interface Environmental Conditioning

BIEC — 三つの思想的コア

- 第一のコア
人を変えるのではなく、人自身の変化が生まれる条件を整える。
- 第二のコア
必要なときに介入し、必要でなくなったら手放す。
- 第三のコア
生命を、生命自身へ返す。

この三つは、BIECを支える思想的原則である。

Bio Essentials (BIEC) の三つの思想的コアを正式に背負わせるなら、

私は

Conditioning

を第一候補にします。

3 つを並べると

- BIEC — Bio Interface Environmental Control
 - 「環境を制御する」
 - 強い・工学的
 - 介入者が主語になりやすい
 - 「生命を支配しない」という思想とは少し緊張関係がある
- BIEC — Bio Interface Environmental Condition
 - 「環境条件」
 - 生命が働ける状態・条件そのものを指すなら意味は近い
 - ただし英語としては、名称としてやや不自然
 - *Condition* は「条件／状態」という名詞なので、「条件を整える」という動作が弱い
- BIEC — Bio Interface Environmental Conditioning
 - 「環境をコンディショニングする／整える」
 - 必要な条件を整え、必要でなくなれば手放すという思想に一番近い
 - Control よりも「支援」「調整」「適応」のニュアンスがある
 - あなたの「生命自身が働く余白を守る」という思想と整合する

なので、

Bio Interface Environmental Conditioning

が最も思想に合います。

ただ、さらに重要なのは、Conditioning = Control より弱いという単純な話ではないことです。

Bio Essentials が言っているのは、

人を変える
↓
人が変化できる条件を整える

です。

これはまさに conditioning の発想です。

そして、

必要なときに介入する
↓
必要でなくなったら手放す

ここにも *conditioning* の方が合う。

さらに、

生命自身が働き始めたら、その働きを尊重する

ここでは、Control という言葉そのものが思想と衝突し始める。

だから私は、今の文章まで到達した段階では、

BIEC = Bio Interface Environmental Conditioning

を推します。

ただし「Condition」は捨てなくていい

むしろ概念としては、

Condition → Conditioning → Control
という階層にすると面白いです。

- Condition
= 生命が働くための条件・状態
- Conditioning
= その条件を整える行為
- Control
= 必要な場合に限定して行う具体的な制御

そうすると、あなたの思想は、

Control のための BIEC ではなく、Conditioning のための BIEC。

そして Control は、その一部にすぎない。

という非常に明確な立場になります。

だから現時点では、私は

BIEC — Bio Interface Environmental Conditioning

を正式名称として残すのが一番美しいと思います。